
傷

鍋木恵梨

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傷

【Nコード】

N3628C

【作者名】

鈴木恵梨

【あらすじ】

鴨部源次は讃岐の大名・十河そこつかすな一在に辞去を申し出る。そして二人が再び会いまみえた時……。

「鴨部^{かもべ}」

城主直々のお声がかりに、源次は顔を上げた。

「兄弟が敵味方に分かれ家を残す。これは乱世の習い」

「いや……いえ」

鴨部の家は、もとを正せば東讃岐に勢力を張る寒川家恩顧。兄・神内左衛門は城持ちであつた。分家の弟である源次は、寒川所領の隣国・阿波の大名に仕えた。その大名こそは源次が対面している十^そ河一在^{こうがすな}その人であつた。

ここ数十年來、寒川と十河とは対立していた。

都の足利將軍家と細川家の争いが波及し、讃岐も争乱の渦中にあつた。というのも細川家の内衆三好氏は阿波に拠点を置いていた。

瀬戸内・摂津の海を挟み、都にも近い阿波・讃岐の覇権争いは、中央の動きと直結していたのである。そして十河一在自身、三好氏の四男の立場にある。騒乱は起こるべくして起こつた。

源次は思いきつて低頭した。

「御殿山に、兄の旗下に戻りとう存じます。なにとぞお許し願いたく」

十河一在は臉を伏せた。

激しい気性のあるじのこと、あるいは……源次は額に汗を感じた。どれほどの時が経つたろう。やがて十河一在はゆっくり、口を開いた。

「いくさのときは遠慮のうかつて参れ」

源次は顔を上げた。十河一在は目尻を緩ませていた。

「ありがたき御配慮」

慮外のことは、源次は礼のことばも覚束ぬ。一刻も早く兄の下へ帰り着き、いくさ支度をせねばならぬ。気だけが急いた。

風雲急を告げる。

十河一在、満を持しての、寒川・池内城進攻が始まるうとしていた。

源次の兄・神内左衛門は目を細めた。

機は熟した。彼はその旗下すべてに目配せし、そして前方を睥睨する。

目指す敵陣は駆け抜け一里。十河一在の首は目前にあり。

「かかれっ」

おお、と呼応し鴨部の党、五〇騎は疾駆した。

突如の敵襲に十河の陣は混乱した。池内城攻めの隊の戦況ははかばかしく、その気の緩みを突かれたのである。

鴨部隊は右往左往の徒歩を斬り捨て、白き陣幕を蹴り倒す。率いる神内左衛門につかず離れず、源次は長剣を必死の体でふるい続けた。かくて内陣に攻め入ったが、既に十騎に満たなかった。

源次は真っ先にかつての主君を探した。

「あれぞ十河一在なり」

源次は刃を向けた。その刃の先へと神内左衛門が突進する。

「その首、貰い受ける！」

源次は兄に襲いかかる輩を斬りに斬った。

——覚悟！

神内左衛門は必殺の槍を繰り出した。

十河一在は左上腕を貫かれた。が、その左腕に力を込める。槍を引き抜けぬ神内左衛門。十河一在は太刀を薙いだ。二度、三度。一在の甲冑が紅蓮に染まる。

源次は獣の如く吼え、飛びかかった。

十河一在まであと数歩——

「遠慮のう、参りましたぞ」

鴨部源次は地に伏した。幾本もの太刀に貫かれていた。

一在の左右は慌てて主君に駆け寄った。

「御館様、傷の手当てを」

「触るな！」

思いがけぬ一喝に、彼らは身を竦める。

目を細めた一在、唾を飲み込み、静かに命じた。

「塩を持て」

十河一在は手ずから槍を引き抜いた。鮮血が飛び散り、溢れる傷口へ塩を擦り込む。染み入る塩、傷は激しく疼く。さしもの十河一在も、呻きをあげずにはいられない。苦痛を噛みしめ、喉に声をこもらせ、俯くばかりである。

鬼気迫る主君の形相に、居並ぶ臣下は肅然と立ち尽くしていた。

やがて十河一在は、太息を吐き、顔を上げた。「外に藤の蔓が生えていたであろう」。塩の塊を傷口に当て、採って来させた藤の蔓で固定した。そして、傷を押さえつつ目を細めた。その目線の先にはおのが身を傷つけた、兄弟が横たわる。一在は深く、ひとつ頷いた。

「鴨部兄弟の首、丁重に届けよ」

十河一在はその後、何事もなかったかのように指揮を執った。池内城が落城し、帰陣したときもその左腕には藤の蔓が絡まっていた。

時を経て、一在の傷は痕を残さず癒えた。

だがその傷の深さの程は——誰も知らぬ事であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3628c/>

傷

2010年10月10日00時06分発行